

## 与論島を活性化させるためにはどのようなことをすればよいか

1114500686 法文学部経済情報学科 1年 田尻奈央

与論島を活性化させるためにすべきことについて、今回私は観光の面から考えてみた。なぜ観光の面から考えたかを説明したいと思う。私は与論島に行く前は「島」といえば青くてきれいな海、ゆったりした空間などのリゾート地のようなイメージを持っていた。実際に与論島に行ってみると、まず目に飛び込んできたのは想像を超えるような青さの海、ミコノス通りのようなリゾート感あふれると通り、雄大な自然、珍しい木々やフルーツ、やさしい人々であった。私は「島」にこれまで言ったことがなかったので非常に感動した。そして、与論島はまさにリゾート地であると確信した。また、現地の方の講義を聴いていてもやはり観光業に力を入れていることが伝わってきた。以上のことが、与論島活性化の方法を観光の面から考えようと思った理由である。

すべきことは、与論島の認知度をさらに上げることである。どんなに与論島が良い場所でも認知度が低ければ観光客は増えない。自己PRが必要である。その具体的な方法を三つ挙げたいと思う。

一つ目は、与論島の特産品や土産を無料で配布することである。東京や大阪国際空港などですでに観光宣伝をしているが、ポスターやチラシの宣伝だけではなくて特産品の試食会やスタンプラリーを行って景品として与論島のお土産をプレゼントしてはどうだろうか。このような事例が実際にあるので話したいと思う。私が高校生だったとき岡山県の観光協会の方々が岡山県のPRに来たことがある。そこでは岡山県の特産品であるブドウや桃、きびだんごなどの無料試食会、販売会、クイズやスタンプラリーが行われており私は景品として岡山土産のブドウの香りがするキャンドルを頂いた。私はそのPR会にはたまたま友人に誘われていったのだが、岡山県のことをたくさん知ることができ、岡山県のことごとく印象に残った。私はPR会の影響を受けて来年岡山県にきびだんごを食べに行こうと計画を立てている。PR会には幅広い年齢層が来場していた。賑わいを見せた要因としては、試食やプレゼントの配布をすべて“無料”で行っていたことにあるのではないかと考える。無料で配布することによってぜひPR会に行ってみようと思うような環境を作ることができると考える。無料で配布することは財政的に結構なリスクを負うことが考えられる。しかし私が与論島の土産物で買い物をしたときに星の砂や、キーホルダーなどたくさんものをサービスしてくれてとても嬉しかったことを覚えている。そのサービス精神があれば無料で特産品を配布するリスクを背負えるのではないかと信じている。

二つ目は、奄美大島、徳之島、沖永良部島などの島々と協力して、「奄美大島、徳之島、沖永良部島、与論島間行き放題パス」というものを作ることである。内容は例えば、このパスを使用すると4日間飛行機、あるいはフェリーで4島間の移動し放題といったものである。よくバスや電車などの乗り放題切符というものを見かけるが、それを応用して考え

出したものである。客層は日本人のみならず、外国人観光客にもターゲットを当ててみてはどうだろうか。実際に九州のバス乗り放題で発売されている“SUNQパス”は日本人観光客だけでなく韓国人にもターゲットを当てたおかげでSUNQパスの売り上げが増加した。東京から与論島に行くほうが、東京から沖縄県に行く法より飛行機の運賃が高いということが問題となっているが、4島間行き放題パスを実現させれば一度に4つの島を満喫できるということで観光客の興味を引くことが可能になると予想されるので、沖縄県に負けないくらいの観光客が与論島に来るのではないかと予想できる。

三つ目は、与論島のゆるキャラを作ることである。なぜかという、ゆるキャラなどを作ったほうが与論島を世間の人々に強く印象付けることが可能であるからである。また、ゆるキャラによる経済効果も期待できる。ここでくまモンを例に挙げてみる。今やあちらこちらで有名になっているくまモンは熊本県のゆるキャラである。くまモングッズの売り上げは2012年で294億円である。また、ゆるキャラは自己PRにもつながる。熊本県への観光客も増加した。与論島にはゆるキャラは存在しないが、“かりゆし”というシンボルなら存在するそうだが、その“かりゆし”をゆるキャラ化してはどうだろうか。ゆるキャラ化しなくても、昔から与論島で大切にされてきたシンボルとして人々に広めるのもよいと思う。特産品やお土産に“かりゆし”のイラストを載せて売り出してみてもどうだろうか。熊本県もあらゆるお土産にくまモンのイラストを載せて売り出したおかげで有名になり経済効果が発揮できた。以上のことから私は与論島のゆるキャラを作るべきだと考える。

印象を付けることは非常に重要なことである。私は初めて与論島を訪れてみて言葉に表せないほどの感動を味わった。また行きたいと思った。この感動を家族や友人、世間の人々にも味わってほしい。だから、与論島に観光客がさらに訪れるようにしっかりPRをすべきである。

#### ●参考資料

[http://arterial.tv/yuruchara-economic\\_effect/](http://arterial.tv/yuruchara-economic_effect/) ゆるキャラサーチ

[http://www3.boj.or.jp/kumamoto/tokubetsu\\_chosa/20131226kumamon.pdf#search='%E3%82%86%E3%82%8B%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%A9+%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%8A%B9%E6%9E%9C'](http://www3.boj.or.jp/kumamoto/tokubetsu_chosa/20131226kumamon.pdf#search='%E3%82%86%E3%82%8B%E3%82%AD%E3%83%A3%E3%83%A9+%E7%B5%8C%E6%B8%88%E5%8A%B9%E6%9E%9C') くまモンの経済効果

講義の意見：私がこの講義を受講して改善したほうが良いと思った点は、鹿児島—与論島間の移動時間である。フェリーでの移動時間はとても長く少し退屈だった。わたしは、移動手段を飛行機に変えて移動時間を短くするべきだと思う。移動時間を短縮してできた時間を講義や体験学習、見学に費やしたほうがより充実した講義になると思う。

読んだ本：奄美大島 与論島の民族語彙と昔話、栄喜久元（編集）、奄美社（発行）

与論島移住史 ユンヌの砂、南日本新聞社（編集）、南方新社（発行）